



週間情報



No.2836

発行日 平成28年9月20日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 電話 03(3234)1321

消防本部の動き

行事

◆ 救急フェアを開催 ～愉快的なマスコットキャラクター達を一日救急隊長に任命～

泉州南消防組合泉州南広域消防本部（大阪）

泉州南消防組合泉州南広域消防本部では、救急医療週間に先立ち、平成28年9月3日（土）、イオンモール日根野において救急フェアを開催しました。

この救急フェアでは、泉州南消防組合のマスコットキャラクター消し玉くん及び当消防組合を構成する3市3町のマスコットキャラクター達が大集合し、消防長から一日救急隊長の委嘱を受けました。

当日は、救急に関連した〇×クイズ大会や心肺蘇生法実技体験、血圧測定や救急・医療相談、さらには子ども達が救助服等を着てマスコットキャラクターたちとの写真撮影会など、各種コーナーを設けて応急手当及び救急車の適正利用についてのPRを行いました。

また、会場には住宅用火災警報器普及啓発コーナーを開設し、設置後の維持管理等の相談窓口並びに住宅用火災警報器の更なる設置普及を呼び掛けました。



【フェアの様子】

◆ 一宮市救急フェアを開催

一宮市消防本部（愛知）

一宮市消防本部では、平成28年9月3日（土）、イオンモール木曽川において、一宮市救急フェアを開催しました。

このイベントは、救急医療週間の行事の一環として、応急手当体験や救急車の適正利用の普及啓発を行い、救急業務及び応急手当の重要性について市民の方に理解と認識を深めてもらうことを目的として開催しました。

当日は、一宮市のマスコットキャラクター「いちみん」による救急〇×クイズ、応急手当体験、救急隊員体験、ぬりえ、救急活動実演、消防音楽隊ミニコンサートなどを行い、多くの市民の方に参加していただきました。

また、ボランティアとして応急手当普及員の方に各コーナーを担当していただきました。



【救急隊員体験の様子】



【救急〇×クイズの様子】

◆ 救急フェアを開催 ～北京オリンピック陸上女子日本代表選手を一日救急隊長に任命～

加古川市消防本部（兵庫）

加古川市消防本部では、平成28年9月4日（日）、応急手当に対する市民の理解を深めるとともに救急車の適正利用を呼び掛けるため、加古川総合保健センターにおいて、救急フェアを開催しました。

当日は、北京オリンピック陸上女子日本代表の小林祐梨子さんを一日救急隊長に迎え、女性職員とのトークショーや心肺蘇生法のデモンストレーションが実施されました。

多くの市民が来場し、胸骨圧迫、AED、異物除去法、止血法等の応急処置の実技や119番通報体験など、救急について「楽しく」「学び」「体験」しました。

小林さんは「今回、救命に対する知識をたくさん学びました。まだまだ知っているようで知らないことが多かったです。」と話していました。



【フェアの様子】



【一日救急隊長の小林祐梨子さん】

訓練・演習

◆ 解体予定建物を使用した消防訓練を実施

さきやま 篠山市消防本部（兵庫）

篠山市消防本部では、平成28年8月9日（火）から12日（金）までの4日間、解体予定である旧兵庫医科大学篠山病院を使用し、全署員を対象に震災対策救助、ドア等破壊、放水及び救助想定訓練を実施しました。

この訓練では、実際の防火対象物を使用したことで、より実災害に近い状況下での訓練となり、訓練資材等の関係から通常の訓練では実施困難なブリーチングも経験でき、現場対応能力の向上を図ることができました。



【訓練の様子】

◆ 国際消防救助隊合同訓練を実施

湖南広域消防局（滋賀）

湖南広域消防局では、平成28年8月26日（金）、北消防署出張所の震災救助訓練施設を活用して、大津市消防局と合同で、地震災害による海外派遣を想定したブラインド型の長時間救助活動訓練を実施しました。

この訓練は、都市型搜索救助技術の向上と併せて、隊員間の連携強化並びに隊員の肉体面及び精神面の強化を図ることを目的とし、建物倒壊により4名の要救助者が発生したとの想定のもと、2小隊が連携し、都市型搜索救助技術を駆使した救出活動を行うことにより、互いに技術交流を図ることができました。

今後も合同訓練を継続し、更なる連携強化に努めていきます。



【訓練の様子】

◆ 消防団と合同で統一的活動標示を活用した検索・救助訓練を実施

二宮町消防本部（神奈川）

二宮町消防本部では、平成28年8月28日（日）、二宮町総合防災訓練において、要救助者検索・救助訓練を実施しました。

震度6強の地震により町内各地区で複数の住宅や建物が倒壊したという想定のもと、建物内に取り残された要救助者の検索と救助を行うとともに、当消防本部及び消防団では、初めての統一的活動標示（マーキングシステム）を活用した訓練となりました。

訓練では、倒壊危険の低い建物については内部検索及び負傷者の搬出を消防団員が実施、倒壊危険の高い建物については、消防団による情報収集と、消防署救助隊および消防隊による内部検索・救助を行うことにより、消防署と消防団が連携した活動を行うことができました。



【訓練の様子】

◆ 部隊運用野営合同訓練を実施

小樽市消防本部（北海道）

小樽市消防本部を含む後志4消防本部では、平成28年9月1日（木）及び2日（金）、小樽市市民消防防災研修センターにおいて、北海道広域消防相互応援協定運用マニュアルに基づく部隊運用野営訓練を実施しました。

訓練には、4消防本部から車両4台、隊員16名が参加し、北海道北西沖を震源とするマグニチュード7.9の地震による被害を想定した部隊運用訓練（ブラインド型）及び野営訓練を実施し、各消防本部間の連携やエアートント設営の手順などの確認を行いました。

当市消防本部では、今後も実践的な訓練を継続的に実施することで、連携強化と情報共有を図り効果的な応受援体制を確立します。



【訓練の様子】

◆ 公共交通機関でのテロ災害を想定した関係機関との連携訓練を実施

東京消防庁（東京）

東京消防庁石神井消防署では、平成28年9月5日（月）、西武バス（株）上石神井営業所において、消防相互応援協定を締結している朝霞地区一部事務組合埼玉県南西部消防本部と連携し、多数の傷病者が発生するテロ災害を想定した救助・救急訓練を実施しました。

「埼玉県和光市に隣接した当署管内において、何者かが仕掛けた時限爆弾により路線バスが爆破され対向車線の車両と衝突、乗客や運転手が負傷するとともに衝突した対向車両が歩行者を巻き込み多数の傷病者が発生した。」との想定のもと、消防隊や石神井消防団、災害時支援ボランティア、西武バス（株）上石神井営業所、練馬区救急業務連絡協議会による救助活動等のほか、消防相互応援協定に基づく特別応援により、埼玉県南西部消防本部から和光消防署の消防車両が出場し、当署の消防隊と連携した活動を実施しました。

この訓練は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、不特定多数の観客等が利用する公共交通機関のテロ災害を想定しており、西武バス（株）の関係者35名が訓練会場を訪れ、熱心に見学していました。見学者からは「4年後に迫った東京オリンピック・パラリンピックを見据え、テロ災害に対してバス会社として何ができるか、何をしなければいけないのかを検証し、不測の事態に備えたい。」との声が聞かれました。



【訓練の様子】

研修等

◆ 平成28年度救急最前線研修を開催

岐阜県消防長会

岐阜県消防長会では、平成28年8月19日（金）、こくふ交流センター（高山市）において、高山市消防本部の協力のもと、平成28年度救急最前線研修を開催し、岐阜県下消防職員等353人が参加しました。

研修は、防衛医科大学校救急部兼防衛医学研究センター外傷研究部門准教授である秋富慎司氏を講師として招き、「実際の大規模災害の課題と対策」と題し、講演いただきました。

福知山線の脱線事故や東日本大震災の現場で活動された経験をもとに、大規模災害時における消防機関と医療機関との連携の必要性や情報共有の重要性などについて約2時間の講演をいただきました。



【研修会の様子】

◆ 危険物機器（防爆）研修会を開催

姫路市消防局（兵庫）

姫路市消防局では、平成28年8月30日（火）、厚生労働省の通達（平成27年8月31日、基発0831第2号）により、爆発の危険のある場所で使用する電気機械器具に関する工場電気設備防爆指針（国際整合技術指針）2015が新たな基準として採用されたことに伴い、危険物施設に設置される防爆機器についての研修会を開催しました。

研修会では、本市職員及び近隣消防本部の担当者42名が参加し、防爆機器製造メーカーの設計者を講師に招いて、実際の機器を手に取りながら施工方法、指針の主な改正点等を学びました。

本研修会を受講することで、各担当者が共通した認識を持つことができたとともに、新指針の理解を深めることができました。

消防とは違った知見から講義いただき、大変貴重な機会となりました。



【研修の様子】

そ の 他

◆ 採用試験で学力テストを廃止

にしいぶり 西胆振消防組合消防本部（北海道）

西胆振消防組合消防本部では、平成29年4月採用の職員採用試験について、学力テストを行わず適性検査と面接を主とする「人物重視」を方針とした募集を行ったところ、採用予定2名に対し例年を大きく上回る104名の応募がありました。

今回の試験は、今後予想される定年退職者の増加と職員定数の削減、女性活躍推進法に基づく女性吏員の採用などを視野に入れ「従来とは異なる採用試験方法が必要である」との考えによるものです。また、新卒・既卒に限らず優秀な資質を持った人物を採用したいとの思いから、受験対象年齢の拡大も行いました。

一次選考は「エントリーシート」と「最終学歴校の成績証明書」による判定で、応募者全員を合格とし、去る9月4日に行われた二次選考（適性検査・作文試験）では辞退・欠席者11名を除く93名（男性82名、女性11名）が緊張した面持ちで試験に取り組んでいました。

試験後のアンケートでは「人物重視の試験は既卒者にはありがたい」「女性消防士への希望が持てた」など好意的な意見が多く聞かれました。

二次選考の結果は9月中にとりまとめ、合格者は11月に行われる最終選考（面接試験）に臨む予定です。



【試験会場の様子】

通 知 等

◆ 予防技術検定の検定科目の出題範囲について（9月5日、事務連絡）

予防課より、各都道府県消防防災主管課、東京消防庁・各指定都市消防本部あてに次のとおり事務連絡されましたのでお知らせします。

予防技術検定の検定科目の出題範囲（根拠条文等）については、「予防技術検定の検定科目の範囲について」（平成18年8月14日付け事務連絡。以下「平成18年事務連絡」という。）により示しているところですが、近年の法令改正等を踏まえ、当該出題範囲を別添（省略）のとおり改正しましたのでお知らせします。

今年度以降の予防技術検定を受検する者は、別添（省略）資料の出題範囲に示す事項を中心に知識及び技術の修得に努めることが望ましいので、各都道府県消防防災主管課におかれましては、貴都道府県内の各市町村等（消防の事務を処理する一部事務組合等を含む。）に対し、この旨周知していただきますようお願いいたします。

なお、今回の出題範囲の改正は、平成18年事務連絡における出題範囲（根拠条文等）の中で、当該事務連絡の発出以降に法令改正が行われた条文等の内容を反映させたものであることを申し添えます。

（以下省略）

○ 全文は、消防庁ホームページ

（http://www.fdma.go.jp/concern/law/tuchi2809/pdf/280905_jimurenaku.pdf）に掲載されています。

【問い合わせ先】
予防課設備係
担当：田中、坂井

報道発表

◆ 平成28年8月の熱中症による救急搬送状況（9月13日、消防庁）

熱中症による救急搬送人員数について、平成28年8月の確定値を取りまとめましたので、その概要を公表します。（以下省略）

○ 全文は、消防庁ホームページ

（http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h28/09/280913_houdou_1.pdf）に掲載されています。

【問い合わせ先】
救急企画室
担当：森川、勝森、足立

◆ 「消防機関と原子力事業者との消防活動に関する連携強化のあり方検討会」の開催（9月14日、消防庁）

原子力施設における通常の火災等の発生時に、消防機関がより安全かつ的確に消防活動を行えるよう、消防機関と原子力事業者のより円滑な連携のあり方について検討するため、「消防機関と原子力事業者との消防活動に関する連携強化のあり方検討会」を開催することとしましたのでお知らせします。

1 背景・目的

福島第一原発事故を契機に、原子力施設に係る安全規制が強化され、消防庁ではこれまでに「原子力施設等における消防活動対策マニュアル」等の見直しを行ったところです。

これらの見直し内容を踏まえて原子力施設における火災等(※)の発生時に、消防機関がより安全かつ的確に消防活動を行えるよう、消防機関と原子力事業者の火災訓練などの連携の現状について調査・検討し、今後の両者のより円滑な連携のあり方について検討するための検討会を開催することといたしました。

※ 原子力災害対策特別措置法の適用を受けない火災等をいう。

2 主な調査・検討項目

- (1) 連携体制に関する現況及び原子炉等規制法等に基づく火災防護対策調査
- (2) 連携強化のあり方の検討

3 スケジュール

平成28年9月21日(水)に第1回検討会を開催する予定です。

4 検討会委員

別紙(省略) 委員名簿のとおり

○ 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h28/09/280914_houdou_1.pdf)に掲載されています。

【問い合わせ先】

救急企画室

担当：森川、勝森、足立

◆ 「自主防災組織等の充実強化方策に関する検討会」の発足(9月16日、消防庁)

自主防災組織等の活動の活性化を図るための支援方策について検討することを目的として、「自主防災組織等の充実強化方策に関する検討会」を設置することとしましたのでお知らせします。

1 目的

今後発生が懸念される大規模広域災害に対応するためには、行政による「公助」はもとより、住民一人一人が自発的に行う防災活動である「自助」や、地域の防災力向上のための自主防災組織をはじめとした、地域の各防災組織が連携して行う防災活動である「共助」なくしては、災害に対処することは困難です。

このような認識の下、平成25年に成立した「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」では、住民の防災に関する意識を高め、自発的な防災活動への参加を促進するとともに、自主防災組織等の活動を活性化することが求められています。

このため、自主防災組織等の活動の活性化を図るための支援方策について検討することを目的として「自主防災組織等の充実強化方策に関する検討会」を設置します。

2 検討事項

- (1) 自主防災組織等に対する支援方策
- (2) 「自主防災組織の手引」の改訂
- (3) その他地域防災力の充実強化に関し必要なこと

3 スケジュール

第1回の検討会を、平成28年9月23日(金)に開催する予定です。

4 委員

別紙(省略)の通り

○ 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h28/09/280916_houdou_1.pdf)に掲載されています。

【問い合わせ先】

国民保護・防災部地域防災室 住民防災係

担当：小此木、山野、荒木

◆ 2017年度「全国統一防火標語」の募集について

消防庁予防課

消防庁では、家庭や職場・地域における防火意識の高揚を図ることを目的として、9月16日(金)から一般社団法人日本損害保険協会と共催で2017年度の「全国統一防火標語」を募集しています。

入選作品は、消防庁の後援により同協会が制作する約20万枚の防火ポスターに採用し、当該ポスターは全国の消防署をはじめとする公共機関等に掲示されるほか、防火意識の啓発・PR等に活用されます。

1966年度の募集から数えて、今回で52回目を迎えます。毎年多数の応募があり、2016年度の募集では全国から17,409点の作品が寄せられました。

消防庁の統計によると、2015年中の火災発生件数は39,111件(前年比△4,630件)、総死者数は、1,563人(前年比△115人)と、前年と比べて減少したものの、依然として多くの被害・犠牲者が出ています。また、火災発生件数を出火原因別にみると、たばこ・こんろ・たき火などの火の不始末など、日常生活での不注意が招いた火災が上位を占めています。

火災の恐ろしさ、防火の大切さ、防火のポイントや手法などを簡潔に表現した斬新な作品をお待ちしています。

【募集期間】

2016年9月16日(金)から11月30日(水)

【応募方法】

パソコン・スマートフォン(一般社団法人 日本損害保険協会ホームページ)から応募

応募先 URL : <http://www.boukahyougo.jp>

【発表】

2017年3月下旬に、一般社団法人 日本損害保険協会ホームページで、入選・佳作作品および入選・佳作入賞者を発表

※詳細は、募集要項(<http://www.boukahyougo.jp>)をご覧ください。



2016年度防火ポスターモデル
平 祐奈さん

◆ 住警器の定期交換促進用チラシの更新について
「10年たったら、とりカエル」(クイズ懸賞付き)

一般社団法人日本火災報知機工業会

一般社団法人日本火災報知機工業会では、平成26年度より、「10年たったら、とりカエル」のチラシ及びDVDを作成して住警器の交換促進を啓発してきました。

今年度は、より多くの方に住警器の交換を認識していただくため、「とりカエル 専用 WEB」にてクイズ懸賞を行います。今回作成したチラシは、「専用 WEB」へリンクするQRコードの表示及びマンガにより住警器の交換の必要性を説明して、分かり易い啓発を行います。

9月下旬には、全国の各消防本部に配布する予定ですので、普及啓発にご活用いただければ幸いです。

<表面>



<中面>



<裏面>



担当窓口

一般社団法人日本火災報知機工業会

技術部 澤 宏

TEL 03 (3831) 4318

Fax 03 (3831) 4365

◆ 「改訂5版 応急手当講習テキスト（救急車がくるまでに）」の追加配付について

一般財団法人救急振興財団

当財団では、「JRC蘇生ガイドライン2015」及び「救急蘇生法の指針2015（市民用）」の内容並びに「応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱（平成5年3月30日付け消防救第41号）」の改正内容等を踏まえながら、「応急手当講習テキスト」を改訂し、本年6月に全国の消防本部（局）へ配付いたしました。

今回、一般財団法人日本宝くじ協会の助成を受けて、各消防本部（局）へ追加配付いたしましたので、普通救命講習等の住民に対する応急手当の普及啓発活動に活用してください。



【問合せ先】

企画調査課

担 当：森、石井

電 話：042-675-9931

FAX：042-675-9050

E-mail：kikaku-info@fasd.or.jp

※ 消防庁各課室の直通電話番号は（<http://www.fdma.go.jp/neuter/about/tel.html>）に掲載されています。

週間情報では、各本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せ下さい。

週間情報への投稿は企画課へ！

TEL 03-3234-1321 FAX 03-3234-1847 E-mail：weekly@fcaj.gr.jp